

# 4 用語集

## あ

### ■ オピオイド類

オピオイド (opioid) とは、麻薬性鎮痛薬やその関連合成鎮痛薬などのアルカロイドおよびモルヒネ様活性を有する内因性または合成ペプチド類の総称である。医療現場では、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニル、ヒドロモルフォンなどが使用されている。

### ■ オピオイドスイッチング

オピオイドの副作用により鎮痛効果を得るだけのオピオイドを投与できない時や、鎮痛効果が不十分な時に、投与中のオピオイドから他のオピオイドに変更することをいう。オピオイドの投与経路の変更をオピオイドスイッチングに含む場合がある。

## か

### ■ 幻覚

知覚の障害として位置づけられ、「感覚器への対応する外的刺激なしに生じる知覚」と定義される。具体的には幻聴、幻視、幻臭などがあるが、せん妄では幻視（見えないはずのものが見える）が多いといわれている。例えば、「病室に犬がいる」などである。

### ■ 抗コリン薬（抗コリン作用）

アセチルコリンがアセチルコリン受容体に結合するのを阻害する効果をもつ薬剤。口渇・尿閉・便秘・認知機能障害などをきたすことが

ある。

### ■ 抗精神病薬

主に統合失調症に使用される薬剤のことである。国内では多くの種類が上市されており、定型抗精神病薬（ハロペリドール、クロルプロマジンなど）と非定型抗精神病薬（リスペリドン、クエチアピン、オランザピン、ペロスピロン、オランザピンなど）に分類される。共通してドパミン D<sub>2</sub>受容体遮断作用を有しており、近年では非定型抗精神病薬が主に用いられている（P93, 「主要な抗精神病薬一覧」参照）。

### ■ 抗ヒスタミン薬

ヒスタミンがヒスタミン受容体に結合するのを阻害する効果をもつ薬剤のことである。眠気を有することがあるが、薬剤によって鎮静作用に差がある。

## さ

### ■ サーカディアン・リズム

生物が示すさまざまな生理現象にみられ、概ね24時間周期で繰り返される変化のことである。睡眠一覚醒、体温、尿量、代謝、ホルモン分泌、月経など、生体に備わった特に自律性をもつ内因性のリズムを指す。概日リズムともいう。

### ■ 錯覚

感覚器に異常がないにもかかわらず、現実とは異なる知覚を生じる。このうち視覚性の錯覚を「錯視」という。例えば、「天井の模様が虫

に見える」などである。

#### ■ 視覚性記憶

「情報の様式」によって記憶を分類した場合、言語性記憶と視覚性記憶に分けられるが、このうち視覚性記憶は、映像や記号など視覚的な形で保存される記憶のことをいう。

#### ■ 視空間認知

目から入った情報のうち、ものの位置や向きを認識する能力のことである。

#### ■ 失見当識・見当識障害

見当識（時間、場所、人など）の障害のことである。例えば、「朝なのに夜中と思っている」「病院にいるのに家にいると思っている」などである。

#### ■ 終末期

生命予後が1カ月程度と見込まれる時期とすることが多いが、明確な定義はない。

#### ■ 錐体外路症状

錐体外路の障害（主に大脳基底核が関与）により生じる症状であり、具体的な症状として、筋強剛、振戦、無動、舞踏運動、アテトーゼ、ジストニアなどがある。

#### ■ 睡眠衛生指導

良質な睡眠を確保するために、睡眠に関する適切な知識を提供し生活を改善することを促す、非薬物的な指導法のことである。

#### ■ 睡眠薬

不眠などがみられた場合に、睡眠の確保を目的として使用される薬剤のことである。作用時間の違いから超短時間型、短時間型、中時間型、長時間型に分類される。代表的な睡眠薬として、ベンゾジアゼピン（benzodiazepine：BZ）受

容体作動薬（非BZ系、BZ系に分類される）、メラトニン受容体作動薬、オレキシン受容体拮抗薬などがある。

#### ■ 数唱

提示された数字を、順に（順唱）あるいは逆順に（逆唱）複唱する認知機能検査課題の一つ。せん妄の意識障害評価にはよく用いられる。

#### ■ スクリーニング

簡便な検査によって、症状が出現する前に発症する可能性のある人/対象を選り分ける方法のことである。

#### ■ 精神運動活動（興奮/抑制）

精神障害を示す行動上の異常と意志統合の障害のことである。行動過多状態（精神運動興奮）と行動過少状態（精神運動抑制）がある。

## た

#### ■ 知覚

感覚器官を通じて、外界の事物を見分け、捉える機能。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚などがある。

#### ■ 注意機能

全般的注意と方向性注意に大別され、全般的注意では、「選択」「持続」「分配」「転換」の各要素に分類される。

#### ■ 鎮静

患者の苦痛緩和を目的として患者の意識を低下させる薬剤を投与すること、あるいは患者の苦痛緩和のために投与した薬剤によって生じた意識の低下を意図的に維持すること。鎮静様式（持続的、間欠的）、および、鎮静水準（浅い鎮静、深い鎮静）が下位分類として定義される。

## な

### ■ 日没症候群

「夕暮れ症候群」「たそがれ症候群」とも呼ばれる。夕方になるとソワソワして落ち着かなくなったり、少しのことに声を荒げたりしやすくなる状態を指す。

### ■ 認知行動療法

人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから、認知の偏りを修正することで、問題解決を手助けすることを目的とした精神療法のことである。

## は

### ■ 半構造化面接

一定の質問に従って面接を進めながら、被面接者の状況や回答に応じて面接者が何らかの反応を示したり、質問の表現、順序、内容などを状況に応じて変えることのできる面接法。構造化面接とは異なり、若干の自由度を併せもつ。

### ■ 非薬物療法（複合的非薬物療法）

薬物を用いない治療的なアプローチ。リハビリテーションや心理療法など多数ある。

### ■ ベンゾジアゼピン系薬

GABA<sub>A</sub>受容体におけるγ-アミノ酪酸（GABA）の作用を強め、鎮静・催眠、抗不安、抗けいれん、筋弛緩などの各作用を発揮する薬剤のことである。抗不安薬、睡眠薬の多くがこ

れに該当する。

### ■ ポリファーマシー

同時に多種類の薬剤を使用している状態で、不必要・不適切な薬剤の使用を含む概念と定義されていることが多い。

## ま

### ■ 妄想

合理的な根拠をもたずに確信された病的な判断・観念で、理性や反証によっても訂正しえない状態。例えば、「医療者に毒物を飲まされる」などである。

## ら

### ■ 離脱せん妄

物質からの離脱によって引き起こされるせん妄。アルコール離脱せん妄（振戦せん妄）が有名であるが、その他の薬剤などでも起こり得る。

## 欧文

### ■ DSM

「Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders」のことであり、アメリカ精神医学会が作成している精神障害の診断と統計マニュアル。2013年5月に第5版（DSM-5）が発行され、現在使用されている。

（谷向 仁，松田能宣，井上真一郎）